

研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名： 31 言語における FG-NER・EL システム開発

2. 個人研究者名

中山 功太（筑波大学 理工情報生命学術院 大学院生）

3. 事後評価結果

本研究は、AI による推論課程の可視化を行なうための根幹技術として、自然文を固有表現レベルで構造化することを目的とする。ACT-X の研究期間において、共有タスクにおける提出結果の統合を行なう、共同教育という新しい手法を開発し、「Wikipedia を活用した細分類固有表現抽出・エンティティリンキングシステムの学習方法の考案」というテーマに関して十分な成果が出ていると評価する。

本研究は、理化学研究所において、Wikipedia の構造化を目指す森羅プロジェクトの隣接研究に位置づけられ、研究者は当該プロジェクトの委員としても参画していることから、本研究の成果は、今後、当該プロジェクトの一部となり、本研究は、森羅プロジェクトの一環として継続されることを期待する。

Wikipedia の情報が多言語で構造化されることは、Wikipedia 利用者にとって、情報の確かさを検証できる効果など、多大なメリットが得られることが期待される。本研究の成果が、課題名である 31 言語に展開され、世界中の多くの人々が適切な情報を得られる社会の実現のための一助となることを期待したい。